

架かる橋の整備事業は、以下のとおりである。

〈港佐賀橋〉国道五六号に架かる佐賀橋の下流に、横浜地区と浜町を結ぶ港佐賀橋が、昭和六一年三月に完成した。工期は約二年で、幅七メートル、延長六〇メートルの橋である。

〈藤縄橋〉昭和中期にできた藤縄橋は、幅が狭く不便なため新橋の建設が計画された。着工から約三年後の昭和六二年九月、幅五メートル、延長八〇・六メートルの新しい藤縄橋が完成した。場所は旧橋の一五〇メートル上流で、古い橋は取り壊された。

〈医心橋〉拳ノ川地区の伊与木川に架かる医心橋は、平成五年（一九九三）に完成した。医心橋の名は、橋の近くに佐賀総合保健センターや拳ノ川診療所、佐賀温泉こぶしの里があることからきている。幅は八・二メートル、延長は五三メートルである。

その他 町道の改良整備事業として、馬地中角線の改良工事が平成五年に完成、久保浦線の改良工事が平成一四年に完成した。また、平成一四―一五年度の実施事業として、町道の拳ノ川城ノ段線、中角藤縄線、成又熊野浦線の各改良工事が行われ、中ノ川地区では高齢者にやさしい道づくり事業が実施された。

国道五六号の改良事業

国道五六号の佐賀改良 佐賀町佐賀の市街地を通る国道五六号は、長い間、道路の道筋が未改良で幅員も狭く、歩道の整備が不十分であった。このため、歩行者や自転車の通行に支障があり、危険な状態が続いていた。住民の安全・安心な活動環境づくりと町の活性化を図るため、国道五六号佐賀改良工事が行われた。工事完成により、佐賀市街

地の交通環境は大きく改善された。

事業の経緯をたどると、平成元年（一九八九）に事業化が決定され、翌年から用地買収などに着手した。佐賀町中角―横浜間の延長二キロを対象に、同四年に着工し、同一四年に全幅二二メートルの道路が完成した。道路整備に伴う主な建造物は、横浜トンネル（延長六二四メートル）と伊与木川橋（延長九五メートル）である。

国道五六号の大方改良 大方町の入野地区を東西に横断する国道五六号は、自動車の交通量が多いが、幅員は狭く歩道も未整備であるため、渋滞や交通事故が多かった。近隣住民による道路整備の要請も強く、歩行者と自転車通行の安全確保が長年の課題となっていた。

大方町では、入野地区の道路整備事業の推進運動を展開し、平成一〇年には、町内外の住民の署名活動なども行った。

こうした推進策が実り、国によるバイパス道路が検討され、平成一一年に、一般国道五六号大方改良事業として認可された。改良事業の対象となるのは、延長二・六キロの市街地で、早咲、浜の宮、入野本村、芝、下田の口の五地区にまたがっている。

平成一三年二月に、国土交通省による整備地区の現地測量が始まり、翌年三月には一部の土地を除いて測量が完了した。そこで、国土交通省からその後の予定が説明された。

内容は、平成一四年度に、道路の設計、関係者との設計に関する協議、用地や建物などの調査を行い、そして、同一五年度には、整備対象地区の用地説明、用地買収、埋蔵文化財調査を経て、工事に着手するというものであった。

ところが、平成一七年の段階で、一部の道路設計や用地調査が完了

中、国道五六号大方改良は黒潮町に引き継がれた。しておらず、改良事業の進行に遅れが出てきた。こうした進捗状況の